今回はお盆にも関わらず、超長文を送ってきてくれました！ありがとうございます☆さすがに入りきらなかったので２回に分けてお送り致します！
今回のテーマは「ノイズ」僕の場合どんなに忙しくても人のボケには突っ込みたくなるのが最大のノイズです・・・。　久田

第 36 回『わかるように伝えていますか』

香川大学　坂井　聡

☆ノイズ

　ノイズとは対人コミュニケーションを妨害するものをさす言葉です。コミュニケーション行動の至る所にノイズは発生します。メッセージを送るときも発生しますし、受け取るときにも、符号化するときにも解釈するときにも発生します。そして、コミュニケーション行動を妨害するのです。コミュニケーション行動がノイズとなるだけではなく、周囲の騒音など環境側からの妨害要因もノイズとなります。

　メッセージを発信する段階でのノイズというのは、メッセージの送り手側の妨害要因が作用する場合のノイズです。送り手側の言葉の誤用や言い間違いなどもノイズになりますし、先入観や偏見などもノイズになることがあります。ノイズはその性質によって三種類に分類されると考えられています。

ひとつは物理的なノイズと言われるものです。周囲の騒音や話し手側の話し方などが物理的ノイズになります。二つ目に心理的ノイズがあります。心理的ノイズは、送り手と受け手側の先入観や偏見といったものです。先入観や偏見といったものは、メッセージを符号化するときにも影響を与えますし、それを解釈するときにも影響を与えることになります。メッセージを受け取る側にも発信する側にも生じるものなのです。もう一つは、意味的ノイズと言われるものです。意味的ノイズは、送り手と受け手がその意味を共通理解していない場合におこるノイズのことです。送り手側によって意図された意味を受け手側が理解できないことによって妨害するノイズのことです。受け手が、メッセージを解読する段階でノイズが生じることもあります。受け手側の妨害要因が作用する場合です。受け手側の言葉の誤解、先入観や偏見などに基づく解釈がノイズとなるということです。

　１）発達障がいのある子どもの場合は（前篇）

意味的ノイズとしては、発達障がいのある人が、送り手となっている場合も受け手となっている場合にもノイズを発生させてしまうことが多くあります。送り手としてノイズを発生させてしまう場合として考えられるのは、言葉の意味を誤って覚えていたり、思い込んで使ってしまったり、いろいろな意味で使うことが出来ないような場合に起こると考えられます。その結果、相手に伝えたいことが、本人の意図通りにうまく伝わらなくなってしまうのです。その結果、誤解をまねいたりしてしまうことになるのです。

　受け手側として、ノイズによる影響をうけることも多くあると考えられます。最も代表的な例は、相手に言われたことを字義通り言葉を受け取ってしまったりするような場合に起こるものです。

相手から言われた、冗談が理解できなかったり、比喩などを理解することができなかったりするような場合です。それらが原因でトラブルになったりすることも多くあると考えられます。

例えば、相手から「いつでもおいで」と言われたような場合です。これは社交辞令と考えられるのですが字義通り解釈していつ行ってもいいと理解して、相手の都合等を考えることなく、自分の都合だけで、その人のところを訪れるような場合です。このような場合、相手から歓迎されるかというとそのようなことはありません。むしろ、「なんの連絡もなくやってくる礼儀を知らないやつだ」ということになり、トラブルになるでしょう。しかし、当の本人はなぜ、トラブルになったのかはわかりません。「いつでもおいで」と言われたのに、なぜ行ってはいけないのだろうと悩むことになるのです。悩むのであればまだよいかもしれません。場合によっては、相手の方に否があると攻撃することもあるかもしれません。受け手側として言葉の解釈を誤解してしまっているために生じたノイズにより影響を受けた結果なのです。

後編に続く・・・

坂井聡先生の紹介
（プロフィール）
香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、 香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、 現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞
（著書）
暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など